大分県立図書館運営の状況に関する評価

○ 図書館法の規定に基づき、令和7年度の運営の状況について評価を行ったもの

・図書館法第7条の3

図書館は、当該図書館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき図書館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

・評価の方法

各年度に定めた重点目標ごと評価指標を設定、年度終了後に指標ごと実績値について県立図書館が自己評価、図書館協議会委員が外部評価（委員意見）を行い、その結果をHPに掲載して公開する。

【自己評価（AからDの4段階）】

A：非常に成果があがっている。
B：成果があがっている。
C：それほど成果があがっていない。
D：全く成果があがっていない。

○ 評価及び意見

（1） 県立ならではの資料収集・保存・提供の推進

評価指標

・ 全資料数（電子書籍を含む）

令和7年度実績	1,269,375	冊
令和6年度実績	1,257,987	冊
令和5年度実績	1,245,142	冊

自己評価	理　由
B	県立図書館としての蔵書構成を維持し、専門書を中心に約2.1万冊の幅広い資料収集に努めた。一般資料の購入における専門書購入割合は52.4%と前年度を2.8ポイント上回る水準を維持し、国庫補助金を活用して電子書籍やバリアフリー資料の充実を図った。電子書籍は、オーディオブックや音声読み上げ機能付きのものの収集を強化し、約800タイトルを収集した。また、収蔵スペースを確保するため、重複本など約1万冊の除籍を行った。さらに、電動書庫の一般資料約5万冊を書庫全体に移動・再配分し、スムーズに資料を収蔵できる体制を整えた。

委員意見	・「専門性」「多様性」「広域性」をコンセプトに掲げ、「知の拠点」としての県立図書館としていくために、「県立ならでは」の資料収集に取り組み、資料数も増加している現状を、今後も維持してほしい ・市町村立図書館との役割分担をしてもらうためにも、専門書の充実は欠かせないと考える ・デジタル化が進み、生成AI時代となり、図書館員は新しいことも取り入れて対応する能力が必要となり、専門性と多様性が求められている ・県立図書館にデジタル技術の専門として在籍し、司書とコラボレーションして、業務に対応する人の必要性を感じている ・産業技術の革新は日進月歩で、理工系や法務、経営などの新しい専門書を限られたスペースで所蔵するためには、除籍もやむを得ない ・オーディオブックのニーズは高まっているので、引き続き収集に努めてほしい

（２）読書環境におけるＤＸの推進

評価指標

・デジタルアーカイブの資料閲覧数

令和7年度実績	20,731	件
令和6年度実績	8,744	件
令和5年度実績	5,469	件

自己評価	理　由
A	三館協同の「おおいたデジタル資料室」は、資料閲覧数が前年度から137.1%増加した。県立図書館では約800点の郷土資料を公開するとともに、県内市町村や資料館等の資料登録を行うなどコンテンツの充実に努めた。また、学習会や体験会の実施、SNSでの広報等により利用促進を図った。

委員意見	・「おおいたデジタル資料室」の資料閲覧数が前年度から137.1%増加したということは、素晴らしいことだと考える ・市町村が所蔵している資料の登録も進んでおり、今後も利用促進に向け、情報発信に努めてほしい ・人気のあるデジタル資料を広報紙等でトピックス的に紹介すると利用の一層の拡大につながる

（３）県民の調査研究・課題解決の支援

評価指標

・レファレンス件数

令和7年度実績	14,023	件
令和6年度実績	13,016	件
令和5年度実績	13,293	件

自己評価	理　由
A	調査相談カウンター、郷土情報カウンター、子ども室カウンターで受付したレファレンス件数は、前年度から7.7%増加した。特に郷土情報カウンターの受付件数は14.0%増加し、高い専門性を評価され、大分県に関する県外からのレファレンスも増えている。

委員意見	・全体的にレファレンス件数が増加し、特に郷土情報カウンターの受付件数が増加し高い専門性を評価されたことは素晴らしい ・レファレンスは、簡易なものを除き専門性が求められるような県民が知りたいことにどのように答えたかという蓄積が重要 ・今後も専門性が評価されるように、レファレンスへの回答の充実に努めてほしい ・レファレンスの具体例を広報紙等で紹介すると、このような案件も相談できるのだと理解でき、利用の拡大につながる ・レファレンスは利用者の満足度が問われる ・AIに頼る昨今の状況を鑑み、図書館でのレファレンスサービスが役に立った事例を、図書館自らが積極的に発信することが必要 ・なんでもAIに頼りきりの現状は、現代人の大きな課題で、大人として、子どもを導くものとして考えていかねばならない

（４） 多様な県民が利用できるサービスの充実

評価指標

・**入館者数**

令和7年度実績	331,743	人
令和6年度実績	315,280	人
令和5年度実績	307,237	人

自己評価	理　由
A	入館者数は前年度から5.2%増加した。研修室が16.8%、学習室が13.6%と増加率が高く、研修や学習の場としても利用されている。学校からの実習・見学受入は75.6%増加し、学校教育の支援の場としても評価されている。

委員意見	・研修室や学習室の利用増加とともに入館者数全体の増加は、県立図書館の利用の幅が広がっている表れ ・県民の多様なニーズの把握とともに、バリアフリー資料等の充実や利用促進へ、さらに取組を推進してほしい ・読書バリアフリー法を基本に、今後も個の尊重を大切にしたサービスの充実を進めてほしい ・図書館に来館することで、色々な体験ができる機会（イベントの開催、新たなサービスの発掘）を可能な限り多く設けてほしい

（５） 子どもが本に親しむ機会の充実

評価指標

・**子ども室貸出冊数**

令和7年度実績	153,566	冊
令和6年度実績	152,559	冊
令和5年度実績	159,378	冊

自己評価	理　由
B	少子化がすすむ中ではあるが、子ども室貸出冊数は前年度から0.7%増加した。子ども室のおはなし会の参加人数も前年度の1,707人から1,751人に2.5%増加したところであり、コロナ前の平成30年度の1,501人と比較しても上回っている。

委員意見	・子どもが本に親しむ機会を充実させるためにも、さらにリピーターを増やす工夫と学校における読書活動との連携が必要 ・選書をする際は子どものニーズを把握し、より良い図書を購入してほしい ・新着図書の貸出促進のため、インスタグラムのリールを活用して積極的に発信してほしい ・子ども室に入った時の温かみを維持するため、外部に委託するのではなく、県立図書館が直接運営するということを守っていただきたい ・不登校児童・生徒支援は「学校・団体活動支援プログラム」でサポートされており、このような支援は県立図書館が先導するかたちで行うべきものと考える

（６） 県内図書館及び関係者への支援と連携

評価指標

・協力貸出冊数

令和7年度実績	17,000	冊
令和6年度実績	17,217	冊
令和5年度実績	19,186	冊

自己評価	理　由
B	システムを利用した予約および週1回の配送により、資料の協力貸出を行った。協力貸出冊数は前年度に比べて1.3%減少したものの、市町村立図書館等で受け取り可能なインターネット予約の件数が大幅に伸びる中で、前年度並みの数値を維持している。また、協力貸出の配送便を活用して、県内各図書館間の相互貸借資料の配送が活発に行われている。

委員意見	・協力貸出冊数の減少状況の分析を踏まえ、今後の連携の在り方の再検討が必要と考える ・小学校の放課後児童クラブなど、団体貸出の潜在的なニーズはまだまだあると考えられるので、ニーズの掘り起こしの取組をお願いしたい ・スクールサービスデーについて、探究学習をどのように図書館で行うか、中学生、高校生、先生方へのアプローチを進めていただきたい

（７） 社会教育の推進による多様な学びを支える環境づくり

評価指標

・生涯学習・社会教育に関する研修・講座受講者の満足度

令和7年度実績	96.0	%
令和6年度実績	95.7	%
令和5年度実績	94.2	%

自己評価	理　由
A	令和7年度は、生涯学習・社会教育に関する計67回の研修・講座を開催した。受講者一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな企画・運営に努めた結果、受講者満足度は前年度から0.3ポイント増加した。すでに高い水準にあった満足度をさらに向上させ、高水準での安定維持を達成している。

委員意見	・生涯学習・社会教育に関する研修・講座の満足度を踏まえ、これらの受講者が県立図書館の利用者増加にさらに貢献できるような取組が必要 ・取組内容をより適確に評価できる指標を模索し続けることが求められる ・読書の有用性のさらなる理解を深めるため、社会教育講演会、生涯学習のための講演会を計画する際は、大分県図書館大会で講演があった「ネット生成AIの時代になぜ読書？なぜ図書館？」及び「生成AIとレファレンスサービス、基礎から図書館の役割まで」をテーマとして取りあげてほしい

○ その他（評価に関連した委員からの意見）

委員意見	・県民に図書館をより親しんでもらうきっかけとして、グッズの販売などを検討いただきたい ・医療・健康・介護情報、「闘病記」について、可能な限り新しい資料の提供をお願いしたい ・職員研修、市町村立図書館の支援で配信している専門的な研修の動画を、専門職員がいない小さな図書情報室などの職員がユーチューブなどで視聴できるような支援もお願いしたい